

令和8年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	75	57	49	5.6	15.4	457 (459)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム (MEXCBT) によるオンライン方式 (CBT=Computer Based Testing) で実施。

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし (尺度) で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点 (点)					平均無解答率 (%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	71	57.7	43.9	42.6	46.2	39.6	6.9	4.9	16.8	5.4	9.7
	大阪市	-										
9月2日	大阪府	-	58.5	48.3	43.4	52.8	51.1	7.6	4.7	16.7	4.5	7.8

※3年生の理科は B問題を選択

調査結果とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

<全国学力学習状況調査>

- ・数学の平均正答率は49%と昨年度に続き低く、大阪市の平均55%を6%下回った。（全国平均は57.0%）
特に数と式や図形の問題での正答率が低かった。また、無回答率は15.4%であり、全国平均より5%多かった(昨年度より2.8%増)
- ・国語の平均正答率は57%と大阪市の平均60%を3%下回った。（全国平均は63.9%）
特に思考判断表現の領域において、書くことに関する正解率が低かった。また、無回答率は5.6%であり、全国平均より0.7%多かった。
- ・質問紙より学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）において「全くしない」割合が全国平均の4倍、大阪府の2倍の結果となった。
- ・質問紙より学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）において、「全くしない」の割合が52%と高い。(昨年度より10%向上はしている)
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答で使用の回数は年々増えてきたが、毎日や頻繁に等での使用の回答が少なかった。

<3年チャレンジテスト>

- ・国語…大阪府平均と比較して、ほぼ同じ値で昨年度より向上しました。強みとしては文章の内容を正確に読み取る読解力や、語彙に関する設問で高い正答率が見られました。課題としては自分の考えを根拠とともに記述する「記述式問題」において、府平均より無解答率がやや高く、記述表現力に改善の余地があります。
- ・数学…基本的な計算問題・概念の理解は府平均と同水準であった。強みとしては数式を用いた明確な計算処理や、基本的な図形の性質に関する正答率が安定しているが、課題としては複数の情報やグラフを読み取って数学的に考察・説明する「統合的・発展的な問題」で、府平均を下回る傾向が見られた。
- ・英語…「聞くこと」「読むこと」は府平均に近い水準ですが、「書くこと」で大きな差が見られた。課題として、与えられたテーマに対して自分の意見を英語の文脈で表現する設問において、得点率の引き上げが今後の目標。

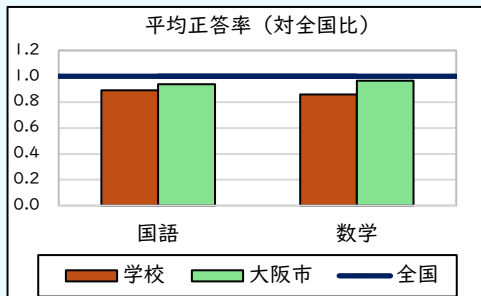
今後に向けて

- ・「記述力・表現力」の強化（教科共通）が必要となり、各教科で「根拠を示して書く・説明する」活動を帯時間や帯学習に取り入れ、無解答率の低下を目指す。
- ・家庭学習の支援として学校での意欲をそのまま家庭に繋げられるよう、自主学習のサポートやICTを活用した持ち帰り学習を促進する。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

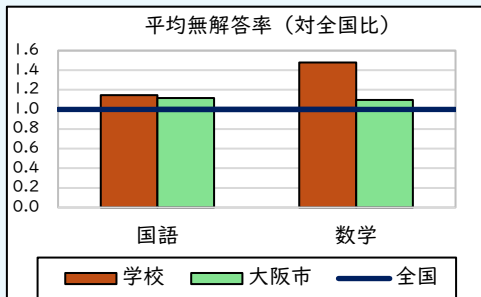
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	57	49
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



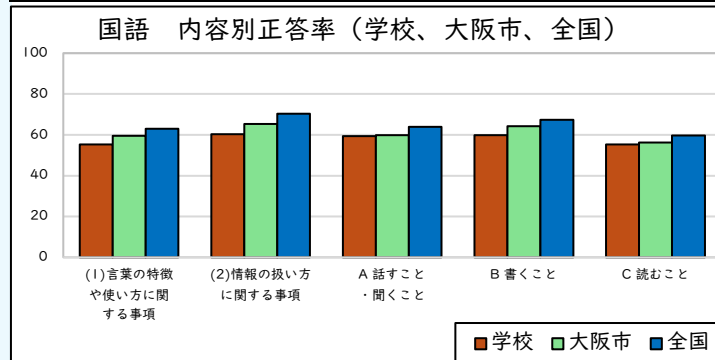
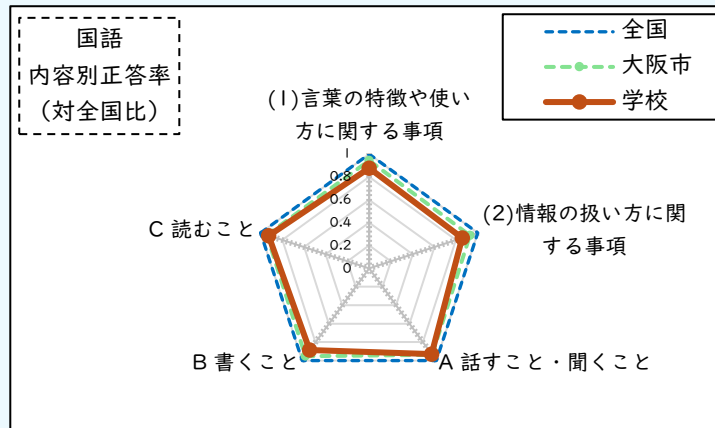
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	5.6	15.4
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



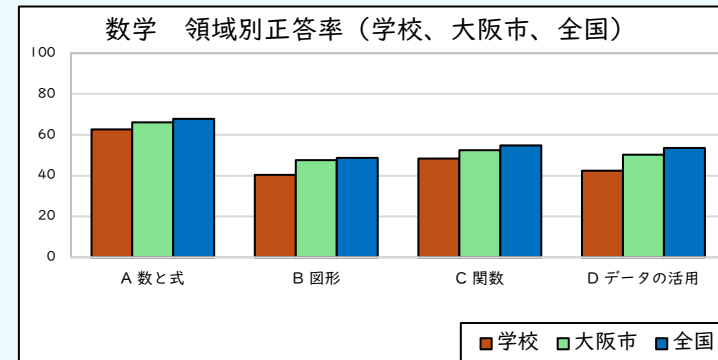
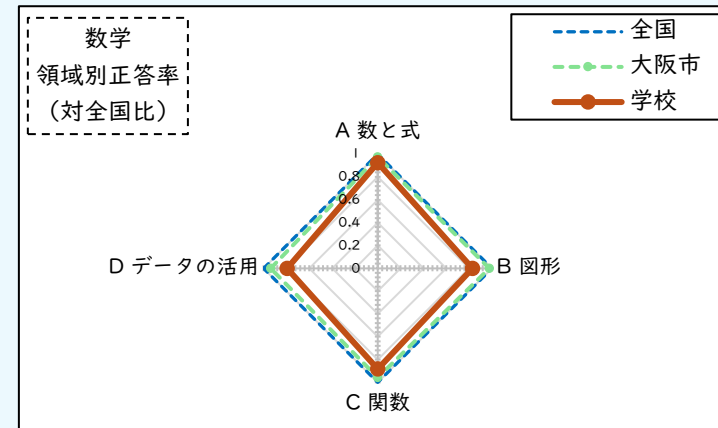
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	55.3	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	60.3	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	59.4	59.9	63.9
B 書くこと	3	59.8	64.2	67.4
C 読むこと	3	55.3	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	62.7	66.1	67.8
B 図形	4	40.4	47.6	48.7
C 関数	3	48.4	52.5	54.8
D データの活用	4	42.5	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

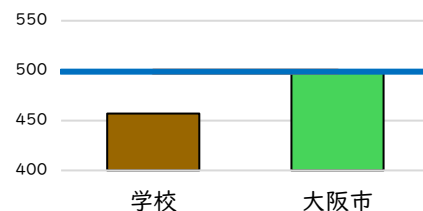
英語 平均IRTスコア

学校	457 (459)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

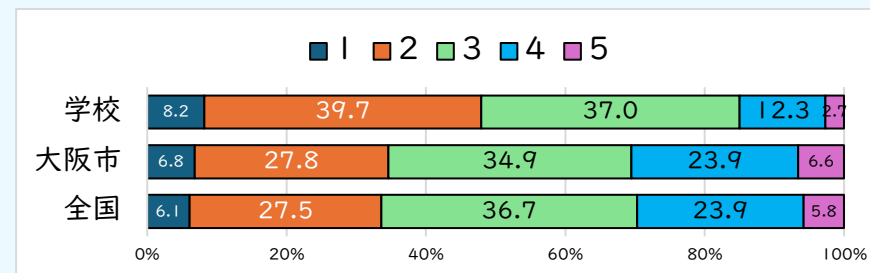
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

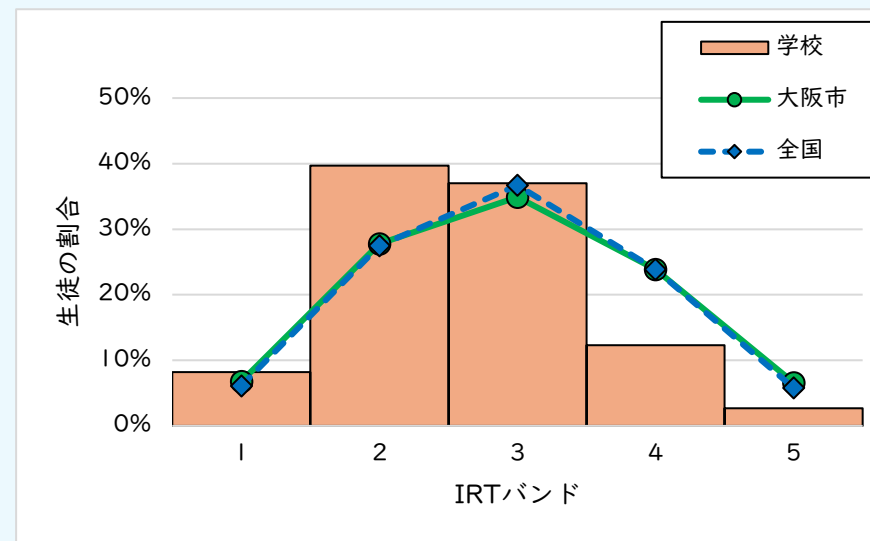
	1	2	3	4	5
学校	8.2	39.7	37.0	12.3	2.7
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



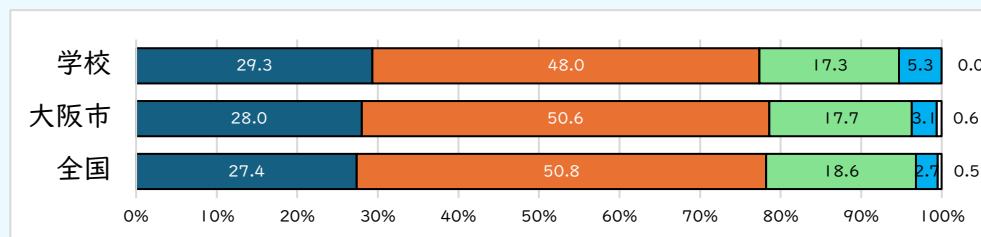
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

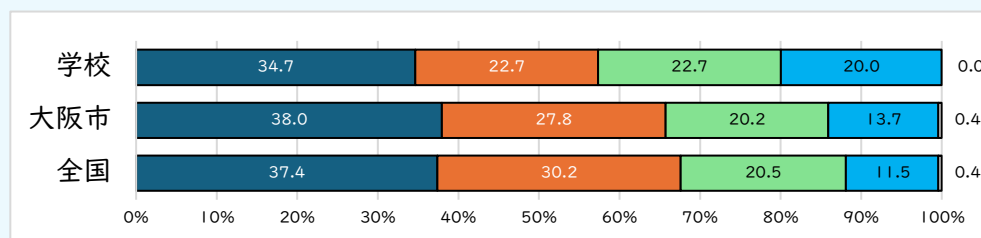
質問番号 質問事項

(22) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



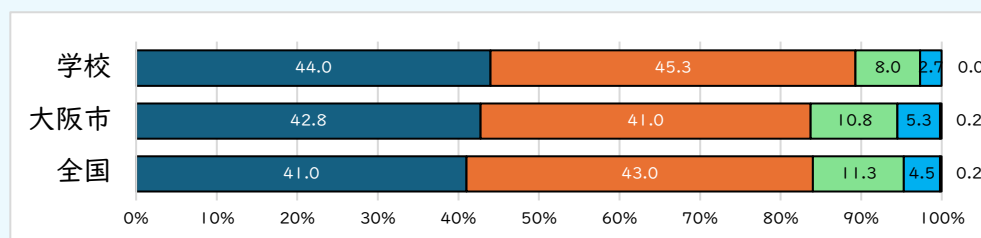
1 できている
2 どちらかといえば、できている
3 どちらかといえば、できていない
4 できていない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



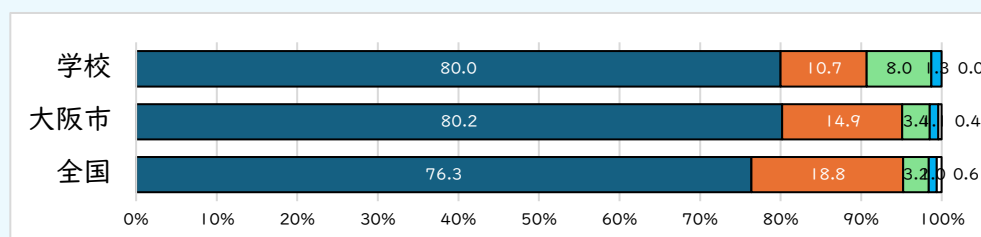
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



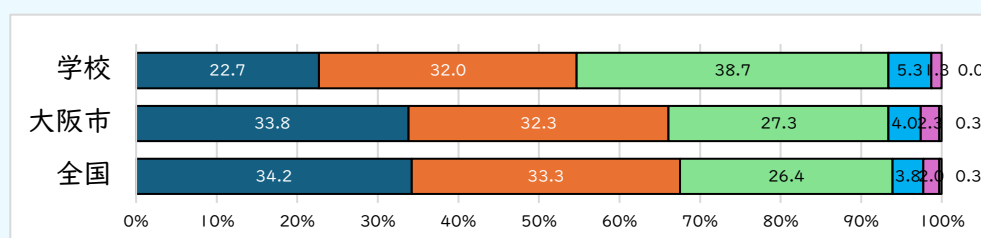
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(20) あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらともいえない
4 どちらかといえば、当てはまらない
5 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

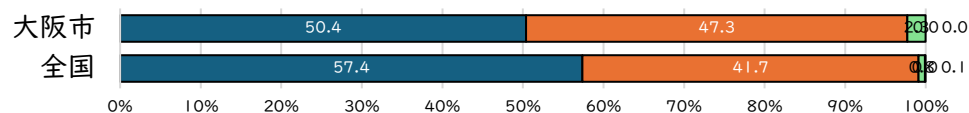
質問番号

質問事項

(19)

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

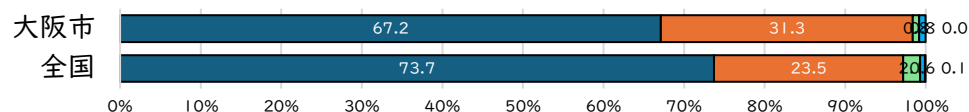


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(13)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか

【学校の回答】 1 そう思う

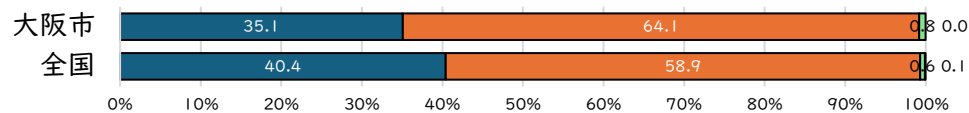


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(16)

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

【学校の回答】 1 十分に取り入れている

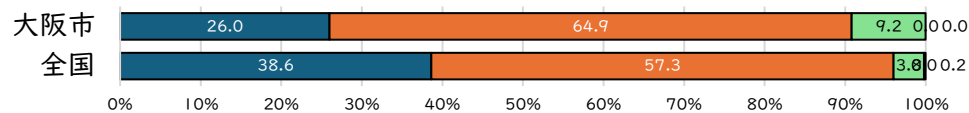


- 1 十分に取り入れている
- 2 一部取り入れている
- 3 全く取り入れていない

(17)

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、している

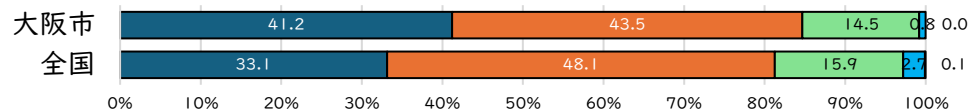


- 1 よくしている
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(24)

生徒にとって、学校施設全体として、生徒が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか

【学校の回答】 1 そう思う



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答